

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第六小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	GIGAスクール構想、令和の日本型学校教育の推進により、ICT活用した授業改善が進んだ。組織的な対応で、全学年で推進できている。「未来あり」の点を全職員で共通認識できている。	A	校長先生を中心に教頭先生も子供たちの為に努力をしていると思う。全教職員が総力を結集して組織的に取り組んでいる様子が伺える。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	管理職への報告を怠ることなく、安全・安心な活動となっている。いじめの早期発見・早期解決に向けた組織的な対応ができている。次年度もさらなる児童理解に努めていく。	A	昔と違い、今は安全安心な学校になっている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A	ICTの活用によって学び方が変化した。子供主体の学びに活かされている。基礎学力向上にもつながる授業改善を推進し、家庭学習のあり方の方を検討していきたい。	A	学校の目指している「自律」と「探究」を是非推し進めてもらい、児童の成長へとつなげてほしい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	ICTを活用し、質の高い授業を毎時間行うことが増えている。次年度は、各自がカリキュラムマネジメントを意識した教材研究を行い、共有できる時間を生み出し、深い学びができる授業改善につなげる。	A	GIGAスクール構想という新しい方針により教職員もよく努力をしている。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	A	チャイム着席などは、担任の声掛けもありよくできているが、あいさつについては、コロナ禍ということもあるが、学校全体で見ると進んでできる児童が少ない。職員の声かけやクラスごとの挨拶運動もしっかり行われている。	A	あいさつ運動がしっかりと身につけている。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	児童理解を深めてきたつもりであるが、さらなる個に応じた対応が必要である。子供の実態把握を十分に行い、規律ある態度をさらに向上させる。	A	六小の保護者から、何度も六小の児童の良い面の話を聞くことができている。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	全教職員で外遊びを奨励し、体力向上に努めるようにしてきた。感染症対策で、縦割り班活動での外遊びの回数こそ減ったが、体育授業では、運動量を確保し、できた喜びにあふれる体育授業をさらに展開してきた。	A	先生たちが休み時間に積極的に外に出て遊んでいる姿が見られるので素晴らしいと思う。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	体育の授業で、肯定的な声が行き交う授業を展開している。自主的に体力の向上を図ることができる児童の育成をさらに目指したい。	A	子供達の健やかな成長に今後も尽力してほしい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	A	感染症により、校内の様子を伝えたり、地域行事への参加できなかつたりする状況である。しかし、限定公開YouTube、Facebookの更新により学校の様子を発信でき、連携につなげることができた。	A	学校からも地域や町会等に要望があれば、どんどん伝えてほしい。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	家庭教育の状況は各家庭で違う。学校と家庭の連携はもちろん、家庭間の連携も充実できるよう、学校運営協議会とも連携しながら、地域ぐるみの健全育成を図っていきたい。	A	働き方改革により、保護者と時間帯が相違するため、連絡をとるのが難しくなっているのではないかと。学校応援団とよく協働し、努力が伝わってくる。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満

右のQRコードから本校YouTube「朝ロクチャンネル」にお入りいただくと、学校評価の詳細を説明している動画をご覧ください。

